

○基本設計における推進委員会の役割

- ・ 基本計画に則って設計が進められているかについて**意見する役割**
 - ・ 基本計画で想定できなかった事象が発生した場合に議論する役割
(現時点では想定なし)
 - ・ 基本設計の段階でお示しするとしていた部分について議論する役割
(事業費、LCC、環境性能(ZEBのランク)等についてお示しできる段階で議題とする)
- ▶ 毎月開催ではなく、3 か月に一度の頻度で開催

施設概要

○施設規模

新庁舎 6,000m²

交流センター 3,000m²

合計約 9, 0 0 0 m²

○階数

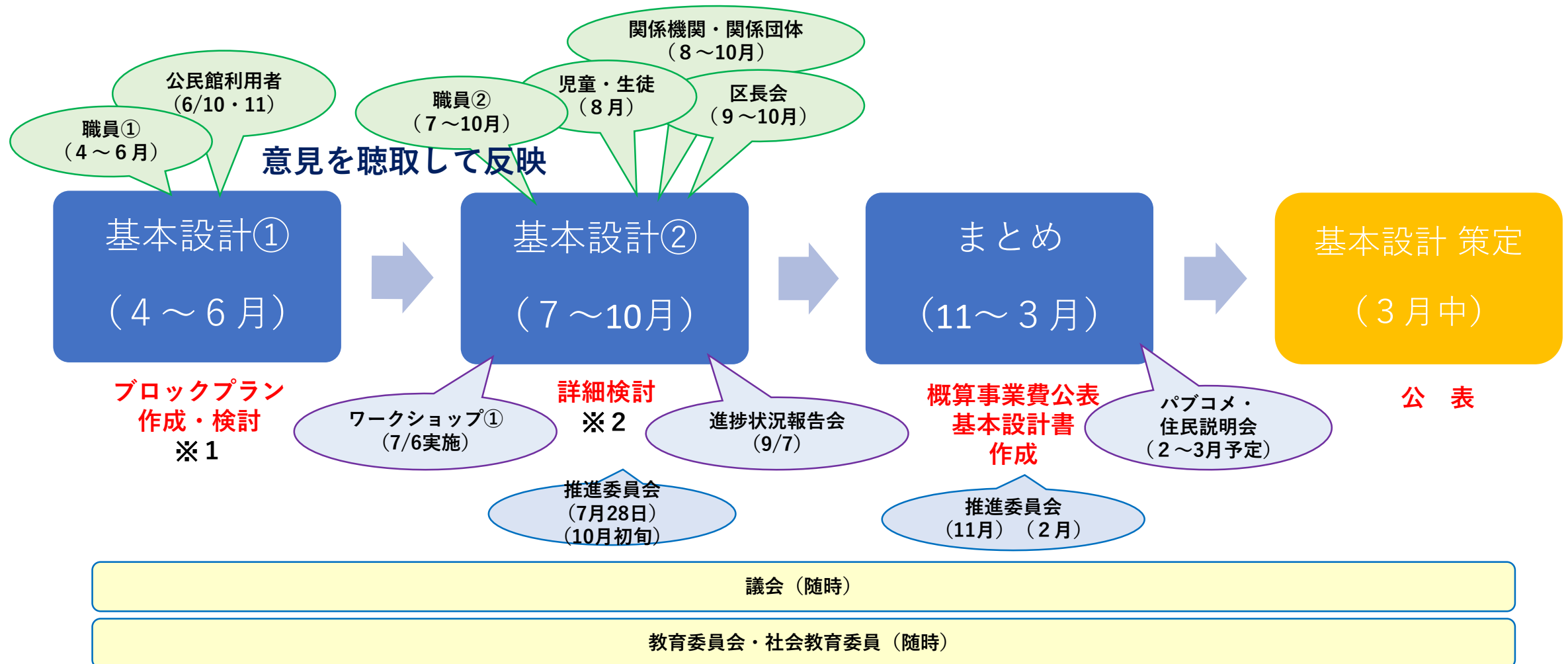
原則 2 階建

○形状

中庭案(多角形)



基本設計スケジュール



木もれ陽の里の機能検討

※**窓口機能集約化を原則**として、住民の利便性、職員のワークスペースの確保、現施設の有効活用を総合的に検討した結果



職員・相談窓口	➡	基本計画どおり 新施設へ移行
集団検診等	➡	引き続き 木もれ陽の里を活用
空いた執務スペース	➡	窓口機能のない 職員のサテライトとして活用を検討

中央公民館・老人福祉センター利用者との意見交換会 (6月10日、11日)



中央公民館・老人福祉センター利用者との意見交換を踏 まえた町の考え（広報7月号掲載）

【施設の有料化について】

施設の建替えに伴い、原則有料化の方針を示しています。「活動が停滞してしまうのでは」という不安の声もありますが、施設を利用する方に一定の利用料をご負担いただくことで、施設を利用する方と利用しない方との公平性を保ちつつ、公共の福祉に資する活動や社会教育活動については減免等をするなど目的や内容によって料金の差別化を図っていきます。

【現状の予約について】

現中央公民館の施設予約は、電話又は窓口のみとなっており、「もっと簡単に予約がしたい」との声も多数あるため、これまでどおりの予約方法に加え、WEBでの予約などについても、早急に改善していきます。

基本設計WS 7月6日

AIで皆さんの意見を
を集約



A案 神社や駅前が賑わうお祭りの一日

夕暮れ時、町の交流センター前に広がるにぎわい広場は、活気と笑い声に包まれていた。空がほんのりオレンジ色に染まり、浅間山のシルエットがくっきりと浮かび上がる中、花火の準備が進められていた。

20代の男性、タクヤは友人のケンジと一緒に、カフェのテラスで暗くなるのを待っていた。タクヤはカメラが好きで、ケンジもその趣味に付き合ってくれる。二人は写真を撮るため、少しでも良いアングルを探して、広場を歩き回った。「あの角度から浅間山と花火が撮れたら、完璧だな」とタクヤが呟くと、ケンジは笑いながら、「それを待つのか、暗くなるまで」と言った。二人はお互いに無言でカメラを構え、少しずつ時間が過ぎていった。

・・・そして、広場には町の人々の温かなつながりと、星空の下で花火が織りなす情感が溶け合っていた。

基本設計WS 7月6日



模型で検討した場合の意見抜粋

- ・ 建物の進入導線について、検討すべきとの意見が
- ・ ホール（大講堂）の使い方について期待を持っている
- ・ 控室などとの連動性に関する意見が寄せられた。
- ・ 和室の必要性についても言及あり。
- ・ 浅間山を望める場所があると良い。



職員説明会 7月16日



職員説明会 7月16日

【意見抜粋】

- ・ 町民が、来やすく、サービスを受けやすく、プライバシーも守られて、職員に相談できる雰囲気、同時に環境に良いもの、を目指す一方、職員が、気持ちよく仕事に従事でき、便利で、安全が確保されている場所など、職員の働きやすさも、是非考慮して工夫をしていただきたい
- ・ 主に現場に出る職場職員にとって防寒着、カッパ、作業着、長靴等を保管するスペースがないと困るので優先的に確保がよい。小型のロッカー使用についてはよくわかりません。
- ・ 入口から必要な課への動線を町民として考えたときに、2階の入り口から、階段というよりは、スロープで解放感を出しながら、1回に降りて行った方がよい。